

【主な学習内容】

- ◎未来の文→未来を表す助動詞 will と be going to の意味と用法を確認する。
- ◎いろいろな助動詞→助動詞の意味と書き換え表現, 未来の助動詞を用いた慣用的な疑問表現について学ぶ。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 未来の文</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単純未来…意志に無関係な自然のなりゆきで, 「～するでしょう」という意味を表す。 ② 意志未来…未来へ向けての今現在の意志で, 「～するつもりです」という意味を表す。 <p>💡 英語における未来表現</p> <p>→動詞の形には現在形と過去形はあるが, 未来形はない。これから起こることを表す場合は, 助動詞の will や be going to を使って, 未来を表すことになる。</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will を用いた肯定文…動詞の直前に助動詞 will をおく。動詞は原形。</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will を用いた否定文…助動詞 will の直後に not をおく。短縮形は won't。</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will を用いた疑問文…助動詞 will を文頭(主語の直前)におく。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 確定的な未来…理由や兆候があつて, そうなることがはっきりしている場合に用いる。 ② 意図や予定…「～するつもりです」と前もって計画していたことを表す場合に用いる。 <p>💡 助動詞 will の意志未来は, 前もっての計画性がない, その場で急に決断した意志を表す。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の肯定文… be going to の直後の動詞は原形になる。</p> <p>💡 be 動詞は主語の人称や単数複数の違いに応じて, am / are / is を使い分ける。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の否定文… be 動詞の直後に not をおく。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の Yes / No 疑問文… be 動詞を文頭(主語の直前)におく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 主語 + be 動詞の部分は, 短縮形の使用も可である。
<p>② いろいろな助動詞</p> <p>☆ 助動詞 can の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 能力・可能「～できる」 ② 許可「～してもよい」 <p>☆ 助動詞 could …助動詞 can の過去形</p> <p>☆ be able to の意味…能力・可能「～することができる[できた]」</p> <p>💡 「～することができるだろう」→[will] + [be able to] + [動詞の原形]</p> <p>☆ 助動詞 may の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 許可「～してもよい」 (= can) ② 推量「～かもしれない」 <p>☆ 助動詞 must の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 義務「～しなければならない」 (= have[has] to ～) ② 推量「～にちがいない」 ③ 禁止「～してはいけない」(否定文) <p>☆ have[has] to の意味</p> <p>💡 助動詞 must とほぼ同じ意味。to の直後は動詞の原形。主語が3人称単数の場合は has to になる。</p> <p>💡 don't[doesn't] have to ～ 「～する必要はない」</p> <p>💡 過去や未来の文の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 過去「～しなければならなかった」→[had to] (must には過去形がない) ② 未来「～しなければならぬだろう」→[will have to] (will must は不可) <p>☆ Shall I ～? 「(私が)～しましょうか」[提案]</p> <p>☆ Shall we ～? 「(いっしょに)～しましょうか」[勧誘]</p> <p>☆ Will you ～? の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 未来時制の疑問文 ② 依頼「～してくれませんか」 (= Please ～.) ③ 勧誘「～しませんか」→ Won't you ～? の形でも用いられる。 <p>☆ Would[Could] you ～? 「～していただけませんか」→ Will[Can] you ～? より丁寧な表現</p> <p>☆ should 「～すべきだ」</p> <p>☆ would like to 「～したい」</p> <p>☆ Would like ～? 「～はいかがですか」</p> <p>☆ had better 「～したほうがよい」</p>	<ul style="list-style-type: none"> • couldn't = could not の短縮形 • Can you ～?[依頼] 「～してくれませんか」 • will can のように助動詞を2つ並べることはできない。 • mustn't = must not の短縮形 • You must not ～. は, 否定命令文 Don't ～. に書き換えが可能である。 • Shall we ～? の文 = Let's ～.(～しましょう)

【主な学習内容】

- ◎不定詞→名詞的, 副詞的, 形容詞的の基本3用法を確認し, 不定詞の応用への備えとする。
- ◎動名詞→動名詞も不定詞も目的語にとれる動詞で, 特に, 意味が異なるものには注意する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 不定詞<to + 動詞の原形></p> <p>☆ 不定詞とは…述語動詞の動詞以外に文中に動詞を含む場合, どちらが本当の述語動詞なのか, 判別しづらくなる。不定詞の形で用いることでその動詞が述語動詞ではないことがはっきりするという効果がある。このことこそが不定詞の存在理由なのである。</p> <p>☆ 不定詞の形…[to] + [動詞の原形] ? 文中では名詞, 副詞, 形容詞と同じ働きをする。</p> <p>☆ 不定詞の名詞的用法…「～すること」の意味で, 動詞の目的語, 文の主語や補語になる。</p> <p>☆ 名詞的用法の訳し方→直前の述語動詞とのつながりにより, より自然な日本語に訳すこと。</p> <p>① like + to 不定詞「～することを好む」→「～するのが好きだ」</p> <p>② want + to 不定詞「～することを欲する」→「～したい, ～したがつている」</p> <p>③ begin(start) + to 不定詞「～することを始める」→「～し始める」</p> <p>④ try + to 不定詞「～することを試みる」→「～しようとする」</p> <p>? 不定詞の否定形 = not + to 不定詞「～しないこと」</p> <p>☆ 主語になる不定詞…主語になる不定詞は3人称単数扱いになる。</p> <p>☆ 補語になる不定詞…be 動詞の直後に to 不定詞をおいて「すること」の意味を表す。</p> <p>? 補語とは…「AはBです。」[A is B.]の文でBにあたる語。主語の内容を補足説明する。</p> <p>☆ 不定詞の副詞的用法[動作の目的を表す不定詞] 意味と用法…「～するために, ～しに」の意味で目的を表す。前方の動詞を修飾する。</p> <p>☆ 不定詞の副詞的用法[感情の原因を表す不定詞] 意味と用法…感情を表す形容詞の直後に to 不定詞をおき, 「～して」という感情の原因を表す。</p> <p>? 名詞的用法と副詞的用法の見分け方</p> <p>① 名詞的用法の不定詞→文全体の目的語・補語・主語になる。文全体に不可欠な成分である。</p> <p>② 副詞的用法の不定詞→文全体の中の修飾語句にあたる。不定詞句の直前までで文は完結する。</p> <p>☆ 不定詞の形容詞的用法 意味と用法…「～するための, ～すべき」の意味で用いられる。この用法は, [名詞] + [不定詞]の形で後置修飾し, 1つの名詞句を形成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 不定詞は, 主語や時制と無関係に, 常に[to] + [動詞の原形]。 • 不定詞を導くその他の表現 would like + to 不定詞 「できれば～したいのですが。」 (want + to 不定詞の丁寧表現) need + to 不定詞 「～する必要がある。」 • (<～ thing(代名詞) + 形容詞 + 不定詞) something cold to drink …何か冷たい飲みもの
<p>② 動名詞<動詞の原形 + ing></p> <p>☆ 動名詞とは…「～すること」の意味を表す[動詞のing形]のこと。名詞と同じ働きをする。</p> <p>① 動詞の目的語になる動名詞</p> <p>② 主語や補語になる動名詞…動名詞が主語の場合, 3人称単数として扱う。</p> <p>③ 前置詞のあとにくる動名詞…動名詞は前置詞の後におけるが, 不定詞はおけない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 動名詞の作り方 →進行形で使う[動詞のing形]と作り方は同じである。
<p>③ 不定詞と動名詞</p> <p>① 不定詞だけを目的語にとる動詞 例 want / hope / wish / decide / promise / expect など</p> <p>② 動名詞だけを目的語にとる動詞 例 enjoy / stop / finish / practice / mind / give up など</p> <p>③ 動名詞も不定詞も目的語にとる動詞</p> <p>I 意味が同じもの 例 like / begin / start / love / continue など [書きかえ可能]</p> <p>II 意味が異なるもの 例 remember / forget / try など [書きかえ不可能]</p>	<ul style="list-style-type: none"> • remember + 動名詞 「～したのを覚えている」 remember + to 不定詞 「忘れずに～する」 • stop + 動名詞 「～するのをやめる」 stop + to 不定詞 「～するために立ち止まる」

【主な学習内容】

- ◎原級を用いた同等比較の文→AとBを比較して、程度や数量が同じであることを表す場合の表現方法について確認する。
- ◎比較級・最上級を用いた文→比較級・最上級の作り方、thanを用いた比較構文、最上級を用いた構文や表現を確認する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 比較級・② 最上級</p> <p>☆ 規則変化による比較級</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ふつう→er, estをつける。 ② 語尾がeのとき→r, stをつける。 ③ 語尾が[子音字+y]のとき→yをiにかえてer, estをつける。 ④ 語尾が[短母音+子音字]のとき→語尾の子音字を重ねてer, estをつける。 <p>☆ 不規則変化による比較級・最上級</p> <ol style="list-style-type: none"> ① good(よい) / well(健康な, 上手に)→better / best ② bad(悪い) / ill(病気の)→worse / worst ③ many(多数の) / much(多量の)→more / most ④ little(少量の) →less / least <p>☆ more / mostを用いる…3音節以上。語末がing / ful / ly / lar / ous / tantなど。</p> <p>☆ thanを用いた比較構文…意味は「AはBより～」で、形は「A…比較級+than B.」となる。</p> <p>☆ 比較級を修飾する表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたの自転車は私のものよりずっとよいです。[ずっと～] →Your bike is much better than mine. <p>☆ 最上級を用いた比較構文…3つ以上の対象を比べて、「Aは…の中で最も～」の意味を表す文。構文形式は、[A+動詞+the+最上級+of(in)….]で表す。副詞の最上級の文ではtheをつけないこともある。</p> <p>☆ ofとinの使い分け</p> <ol style="list-style-type: none"> ① of…直後に複数の人やものを表す語句 例 of the four / of all the boys / of us all ② in…直後に場所/集団/範囲を表す語句 例 in our city / in his class / in my family <p>☆ 最上級を用いた重要表現…「最も～な…のうちの1つ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都は世界で最も美しい都市の1つです。 →Kyoto is one of the most beautiful cities in the world. 	<ul style="list-style-type: none"> • more / mostを用いる語彙例 <ol style="list-style-type: none"> ① interesting「面白い」 ② beautiful「美しい」 ③ useful「役に立つ」 ④ carefully「注意深く」 ⑤ quickly「すばやく」 ⑥ slowly「ゆっくり」 ⑦ popular「人気のある」 ⑧ famous「有名な」 ⑨ important「重要な」 ⑩ difficult「難しい」 • 原級を強調する場合はveryをつけたのに対して、比較級を強調する場合はmuchをつける。 例 とても古い「<u>very</u> old」 よりずっと古い「<u>much</u> older」 • 「最も～な…のうちの1つ」 → one of the +最上級+名詞の複数形
<p>③ 原級を用いた比較</p> <p>☆ as原級asの文…「AはBと同じくらい～」の「～」の部分に形容詞や副詞がくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トムはボブと同じくらいの背の高さです。 →Tom is as tall as Bob. [形容詞 tall の原級を用いた be 動詞の文] <p>☆ as～as構文の否定文…「AはBほど～でない」という意味で、「同じくらい～でない」ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の兄は私の父ほど背が高くありません。 →My brother is not as tall as my father. [私の父の方が背の高いことを表している] 	<ul style="list-style-type: none"> • 原級とは、活用変化していない形容詞や副詞のもとの形のこと。 • <- times as +原級+ as ...> 「…の-倍～」 ※「2倍」はtwice

【主な学習内容】

- ◎文の4要素と5つの文構造→それぞれの文の要素が文構造の中でどのような役割を担うのかを把握する。
- ◎接続詞 that と時制の一致→名詞節を導く接続詞 that の意味と用法を中心に、時制の一致について確認する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 文要素・2 文構造</p> <p>☆ 文の4要素</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主語[Subject]→「S」と表記する。英文の基本構造 [A] [X] [B] の [A] に相当する。 ② 動詞[Verb]→「V」と表記する。英文の基本構造 [A] [X] [B] の [X] に相当する。 ③ 補語[Complement]→「C」と表記する。「[A] は [B] です(A = B)」という文の [B] に相当する。 ④ 目的語[Object]→「O」と表記する。「[A] は [B] を～する」という文の [B] に相当する。 <p>📌 修飾語句→4つの文の要素以外の語句は、修飾語句として扱う。形容詞句と副詞句がある。</p> <p>☆ 5つの文構造…英文は、4つの文の要素の組み合わせによって5つの文構造に分類される。</p> <p>☆ SVの文とは…主語と動詞のみで成り立つ文構造。動詞の直後にさまざまな修飾語句(副詞句)がつくことが多い。</p> <p>💡 There 構文は、変則的なSVの文構造と考える。 ・机の上に何冊かの本があります。→ There are some books on the desk. 主語(S)は「some books」で、動詞(V)は「are(be動詞)」である。</p> <p>☆ SVCの文とは…主語と動詞のほかに補語を必要とする文構造。補語は主語の内容や状態を説明する語のことで、名詞・代名詞・不定詞・動名詞などの名詞相当語句に加え形容詞も補語になる。</p> <p>💡 英文の基本構造 [A] [X] [B] において、[A] が名詞相当語句で、[B] も名詞相当語句(または形容詞)で、AとBの関係が[A = B]の関係とみなされる場合、SVCの文構造[第2文型]といえる。</p> <p>☆ SVOの文とは…主語と動詞と目的語によって成り立つ文構造。目的語は動作の作用が及ぶ対象を表す語のことで、名詞・代名詞・不定詞・動名詞などの名詞相当語句が目的語になる。</p> <p>☆ SVOOの文とは…動詞に前置詞を介さず2つの目的語を連続させる文構造。語順は、[主語+動詞+間接目的語(人)+直接目的語(もの)]になる。</p> <p>💡 直接目的語(もの)が it / them などの代名詞の場合→SVOの文構造で表す。 💡 SVO(もの)+ to[for]+人への書きかえ toをとる動詞: give, teach, tell など forをとる動詞: buy, make, get など</p> <p>☆ SVOCの文とは…動詞に前置詞を介さず目的語と補語を連続させる文構造。語順は、[主語+動詞+目的語+補語]になる。この文構造の補語は、直前の目的語の内容を説明するためのもので、O = Cの関係性を有する。</p> <p>💡 SVOCの文とSVOOの文の見分け方 →動詞の直後の目的語のあとの語が、その目的語とイコールの関係になるかどうかで見分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「in the sea」も「on Sunday」も修飾語句(副詞句)である。 ・SVの文でのbe動詞の意味は「～にいる(ある)」になる。 ・SVCの文構造で用いられる一般動詞の例 <ol style="list-style-type: none"> ① ～に見える「look」 ② ～になる 「become / get / grow / turn」 ③ ～に感じる「feel」 ④ ～に聞こえる「sound」 ⑤ ～な味がする「taste」 ・SVOC文の補語のことを、目的格補語という。 SVO文の補語のことを、主格補語という。
<p>3 接続詞</p> <p>☆ 等位接続詞とは…語と語、句と句、節と節をたがいに対等の関係で結ぶ接続詞。</p> <p>☆ 従属接続詞とは…節と節を、「主節」(中心となる節)と「従属節」(副詞節や名詞節)の関係で結ぶ接続詞。従属接続詞は時・条件・理由・譲歩を表す副詞節(主節を修飾する節)や名詞の働きをする名詞節(主節の動詞の目的語になる節)を導く。</p> <p>☆ 接続詞 that の意味と用法…「～ということ」の意味を表す。接続詞 that が導く節は名詞節になる。</p> <p>・彼は私が早く起きたことを知りません。 [(主節)彼は知りません+(従属節)私が早く起きたこと] → He doesn't know that I got up early. [that 節=動詞 know の目的語(名詞節)]</p> <p>💡 「～ではないと思う」と表すときは、ふつう主節の think を否定し、that 節は肯定文で表す。</p> <p>📌 形容詞+ that 節… that 節は形容詞の直後に置くこともできる。</p> <p>☆ 時制の一致…主節の動詞が過去形るとき、従属節の動詞や助動詞も過去形にする言語規制。 日本語に訳すときは、主節だけを過去で訳し、従属節は過去として訳さない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ that 節をともなう形容詞 <ol style="list-style-type: none"> ① ～ではないかと心配する 「be afraid that～」 ② ～をうれしく思う 「be glad that～」 ③ ～を残念(気の毒)に思う 「be sorry that～」 ④ ～を確信している 「be sure that～」

【主な学習内容】

- ◎受動態の形と意味→受動態と能動態の相違点, 否定文と疑問文の作り方を確認する。
- ◎注意すべき受動態→SVOOの文の受動態, byを使わない受動態について習得する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 受動態の文・② 受動態の否定文・疑問文</p> <p>☆ 態とは…ある事柄について, 誰(何)を中心に述べるかによって動詞の形が変わること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 能動態…動作をするものを主語にして, 「～が…する」という関係を表す。 ② 受動態…動作を受けるものを主語にして, 「～が…される」という関係を表す。 <p>☆ 受動態における動詞の形→be動詞+過去分詞</p> <p>☆ 過去分詞とは…動詞の語形変化形(原形・現在形・過去形・現在分詞など)の1つで, 現在完了の文や受動態の文で用いる。使う動詞が規則変化か, 不規則変化かに注意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 規則変化…規則動詞の過去分詞は, 過去形と同じく原形の語尾にedやdをつける。 ② 不規則変化…不規則動詞の過去分詞は, 不規則に変化する。4つの類型に分けられる。 <p>☆ 現在時制の受動態…be動詞[am / are / is]+過去分詞</p> <p>☆ 過去時制の受動態…be動詞[was / were]+過去分詞</p> <p>☆ by+行為者…受動態の文において, 動作をするもの(行為者)を示す場合, be動詞+過去分詞の後方に[by+行為者]をおく。</p> <p>☆ 否定文の表し方→be動詞+not+過去分詞</p> <p>☆ 否定語句が受動態の文の主語になる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの教室には花がまったく見られませんでした。 → No flowers were seen in our classroom. <p>☆ Yes / No 疑問文の表し方とその答え方→be動詞+主語+過去分詞～?</p> <p>☆ 疑問詞で始まる疑問文の表し方とその答え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 疑問詞が主語でない疑問文…疑問詞+be動詞+主語+過去分詞～? ② 疑問詞が主語である疑問文…疑問詞+be動詞+過去分詞～? 	
<p>③ by以外の前置詞を使う受動態</p> <p>☆ be動詞+過去分詞のあとにby+行為者とは異なる前置詞を用いた表現がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ～でおおわれている「be covered with～」 ② ～で混んでいる「be crowded with～」 ③ ～でいっぱいだ「be filled with～」 ④ ～に興味がある「be interested in～」 ⑤ ～に知られている「be known to～」 ⑥ ～が気に入っている「be pleased with～」 ⑦ ～に満足する「be satisfied with～」 ⑧ ～に驚く「be surprised at～」 	<ul style="list-style-type: none"> • be made + 前置詞 → be made from 「(原料)から作られる」 → be made of 「(材料)できている」
<p>④ 注意すべき受動態</p> <p>☆ SVOOの受動態…目的語が2つある文(SVOO)は, ふう「人」と「もの」のそれぞれの目的語を主語とした2通りの受動態を作ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私のおじは①私に②この時計をくれました。 → My uncle gave ① me ② this watch. [能動態] ① 人を主語にした受動態の文…私は私のおじにこの時計をもらいました。 → I was given this watch by my uncle. ② ものを主語にした受動態の文…この時計は私のおじが私にくれたものです。 → This watch was given (to) me by my uncle. <p>💡 人を主語にした受動態の文が不自然になる場合…書き換え文が, SVO+for+人になる文。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の姉は①私に②あの人形を作ってくれました。 → My sister made ① me ② that doll. [能動態] ① 人を主語にした受動態の文→私は私の姉にあの人形を作ってもらいました。 → I was made that doll by my sister. [×] ② ものを主語にした受動態の文→あの人形は私の姉が私に作ってくれたものです。 → That doll was made for me by my sister. [○] <p>☆ SVOCの受動態…目的語を主語にして, 補語(C)はそのまま過去分詞の後方に置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼の家族はその猫をタマと呼びました。 → His family called the cat Tama. [能動態] ・その猫は彼の家族にタマと呼ばれていました。 → The cat was called Tama by his family. [受動態] 	<ul style="list-style-type: none"> • toは省略できる。 • SVO+for+人になる動詞 例 get / make / buy / find • 作られたものが何であるのかがはっきりしないので不自然。 • forは省略しない。

【主な学習内容】

- ◎継続・経験を表す現在完了→継続・経験を表す用法で用いられる副詞句を中心に、現在完了の継続用法と経験用法について確認する。
- ◎完了・結果を表す現在完了→完了・結果を表す用法で用いられる副詞句を中心に、現在完了の完了用法と結果用法について確認する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 継続</p> <p>☆ 継続を表す用法…「(ずっと)~している」「(ずっと)~である」という意味で、過去に始まった動作や状態が現在もなお継続中であることを表す、現在完了の用法の一つである。</p> <p>☆ 継続を表す用法で用いられる副詞句</p> <ul style="list-style-type: none"> ① for + 期間を表す語句 例 for a week 「1週間」 for a long time 「長い間」 ② since + 過去のある時を表す語句や節 例 since yesterday 「昨日から」 ③ その他の副詞句 例 this week 「今週ずっと」 all day 「1日中」 today 「今日」 <p>☆ 否定文の表し方→ have (has) の直後に not を置いて、[have (has) not + 過去分詞] の形で表す。</p> <p>☆ 疑問文の表し方と答え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Yes / No 疑問文→ have (has) を主語の直前に出して、[Have (Has) + 主語 + 過去分詞 ~ ?] の形で表す。 ② 継続期間をたずねる疑問詞疑問文→ How long + have (has) + 主語 + 過去分詞 ~ ? 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語 + have [has] の短縮形 I have → I've you have → you've he [she] has → he's [she's] ・have not の短縮形 → haven't has not の短縮形 → hasn't
<p>2 経験</p> <p>☆ 経験を表す用法…「(今までに)~したことがある」という意味で、過去の出来事を経験的知識として今現在の時点から追認していることを表す、現在完了の用法の一つである。</p> <p>☆ 経験を表す用法で用いられる副詞句…回数や頻度を表す語句がよく用いられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1文の最後尾におくもの 例 before 「以前」 once 「1度」 twice 「2度」 ~ times 「~回」 ② 過去分詞の直前におくもの 例 often 「しばしば」 sometimes 「ときどき」 <p>☆ 過去分詞 been を用いた連語表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① have (has) been to ~ 「~へ行ったことがある」[経験] ② have (has) been in ~ 「~にいたことがある」[経験] 「(ずっと)~にいる」[継続] <p>☆ 否定文の表し方→現在完了の否定文はふつう not を用いるが、特に経験を表す文では never を用いることが多い。「1度も~したことがない」という意味を表す。</p> <p>☆ 疑問文の表し方と答え方→特に経験を表す文の疑問文では、ふつう ever (今までに) を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Yes / No 疑問文… have (has) を主語の直前に出し、[Have (Has) + 主語 + ever + 過去分詞] の形に。 ② 経験の回数をたずねる疑問詞疑問文… How many times + have (has) + 主語 + 過去分詞 ~ ? 	<ul style="list-style-type: none"> ・have (has) been there → there は単独の副詞なので、前置詞 to や in は不必要。 ・never も、過去分詞の直前に。 ・ever も、過去分詞の直前に。 ・No, I never have. → never の位置に注意する。 ・How many times ~ ? = How often ~ ?
<p>3 完了・4 結果</p> <p>☆ 完了を表す用法…「~したところだ」「~してしまった」という意味で、過去に始まった動作が今現在の時点においては完了していることを表す、現在完了の用法の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① have (has) + just + 過去分詞 ~ 「ちょうど~したところだ」 ② have (has) + already + 過去分詞 ~ 「すでに(もう)~してしまった」 ③ have (has) been to ~ 「~へ行ってきたところだ」[完了] 「~へ行ったことがある」[経験] <p>☆ 結果を表す用法…「~してしまった(その結果、今は…だ)」という意味で、過去の動作の結果が今現在の時点においても残っていることを表す、現在完了の用法の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① have (has) gone to ~ 「~へ行ってしまった」 ② have (has) lost ~ 「~をなくしてしまった」 ③ have (has) become ~ 「~になった」 <p>☆ 否定文の表し方→「(まだ)~していない」という意味を表し、「まだ」の意味を表す yet を文末に用いることが多い。</p> <p>☆ 疑問文の表し方→「(もう)~しましたか」という意味を表し、「もう」の意味を表す yet を文末に用いることが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・just → 現在完了で使う。 now → 現在完了で使う。 just now … たった今 → 過去の文で用いる。 ・文に回数や頻度などの副詞句をとともうと経験の意味を表す。 → have (has) gone to 「~へ行ったことがある」